



みなみの風

坂下南小学校
学校だより
NO. 202
R8. 1. 19

ドリーム & チャレンジ! ~あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん~ (文責:校長 菅家 篤)

自分の判断で自分の命を守るように ~避難訓練から~



9日の避難訓練は、冬季・積雪時に発生した火災を想定し、避難の通報を聞き、放送の指示通り、安全に速やかに避難することをねらいに行いました。いつ起こるか分からない災害に備えて、子どもたちは、安全への意識をもって参加していました。

避難訓練は、学校のように多くの人が集まる建物で火災が発生したときに集団で安全に避難するためのものですが、日常生活で火災が発生した際に、子どもたちが、自分の判断で自分の命を守ることができるようにと願い、特に次のポイントについて指導しました。

〈ポイント1〉 下に向かって逃げる

(煙の上昇速度は、人の約6倍)

〈ポイント2〉 低い姿勢で壁に手を当てながら壁づたいに逃げる

(煙とクリアな空気の間と境目「中性帯」よりも下を逃げる)

〈ポイント3〉 ハンカチやタオル(できれば濡らして)で口と鼻を押さえ煙を吸わない

(煙には不完全燃焼で一酸化炭素が含まれ、血液中のヘモグロビンと結合すると、体に酸素が行かず呼吸困難になる)



言葉の魔法 ~やさしい3学期をつくろう~

南小3学期のテーマは「やさしい3学期をつくろう」です。始業式では、3つの「あ」(あいさつ・ありがとう・あったか言葉)を意識して学校生活を過ごしてほしいと子どもたちに話しました。

言葉には、目に見えない不思議な力があります。子どもの頃、転んで膝を地面にぶつけたとき、母親に「痛い痛い、あっちのお山に飛んでいけよ」と、痛めた膝をさすってもらいながら言われると、不思議と痛みが和らぎました。手のひらの温もりと思いやりが、その言葉にそっと込められていました。何か特別な力をもっていた訳ではありませんが、痛みも不安も少しだけ遠くへ押しやることができました。

優しく語りかける言葉には、傷そのものを癒やすことはできなくても、心の痛みを柔らかく包み込んでくれる不思議な力があります。

「だいじょうぶだよ」「よくがんばったね」「すごいね、いいね」・・・、そうした言葉も人を元気づける小さな魔法です。

そんな優しい言葉で溢れる南小学校をつくっていきたいです!



「おしつけ」でない「躰」 ~大人が示す美しい姿~

小説家の森沢明夫さんが、剣道で国内最高位の段を持ち、禅の在野の大家でもある井上義彦氏と対談したとき、井上氏がこんな話をしていました。

「うちの剣道場にも、大人にちゃんと挨拶をできない子どもが来ます。そういう子に『挨拶なさい』と叱っても、なかなか変わりません。でもね、その子に対して、逆に私の方から、日々しっかりと敬意を込めて挨拶をし、礼を尽くすようにしていると、その子はみるみる礼儀正しくなるんです」

ようするに、大人が子どもにしたことを子どもは大人に返すようになる、というわけです。

よく、「子どもを見れば親が分かる」と言われますが、きっとそれは本当なのでしょう。

子どもに「こうしなさい」「ああしなさい」と、押しつけるのではなく、大人が身をもって美しい姿を示すことが、本当の躰なのかもしれません。こんなことを書いている私ですが、心身を正さなければ、と我が身を深く反省しています。

